鯉の宮坂・宮香本舗

恋だより

フリーダイヤル 0120-25-7188
fax 0238-21-2309
URL http;//www.koi-miyasaka.com
■ 第40号 平成23年11月発行
■ 発　行 鯉の宮坂・宮香本舗

可惜夜の
わけても月の
都鳥

〈季語/都鳥・季節/冬〉

黛 まどか　俳人。本名円。
1962年神奈川県生まれ。

今季号も黛まどかの作品。可惜夜と書いて「あたらよ」と読みます。惜しむべき夜とは、一片の月を掲げた冬の夜のことでしょう。文字通り、惜しむべき夜。この美しい夜には、海上で過ごすために向かう都鳥（ゆりかもめ）がとりわけ映えるのです。冬月に照らされた都鳥の半影が、月明かりと絶妙なコントラストを見せるのではないでしょうか。

アルカディア おきたま再発見シリーズ 第12回

～ 究極の健康食 かてもの～ 雑草を食べる山形県民

■天明の大飢饉■

天明3年（1783年）、米の作柄は例年の1/4となる大凶作となった。東北の津軽・南部・仙台藩では、18万人の餓死者を出したという。しかし当時の米沢藩主・上杉鷹山公は、藩内の郷倉のみならず、全ての蔵を開いて領民に米をはじめとする穀物計4万8千俵を放出し、領民に配給を施した。その結果、米沢藩は領民の犠牲を出さずに済んだのだ。しかしその陰に隠された施策があった。

■鷹山公の危機管理■

鷹山公はこの年、天候が不順から凶作とそれに伴う飢饉の可能性を予測していた。そこで藩の執政であった莅戸善政らに対応策を命じた。莅戸らは、藩士・領民に対して白米を食べる事を禁じると共に米を原料とする酒や菓子の製造を中止させて主食の食い延ばしを図った。また

ごあいさつ

～私の参加セミナーから～

いつも「恋だより」を読んでいただいている皆様、こんにちは！お元気でいらっしゃいますか？さて弊社では、セミナーとか講演会の案内を年間60回以上いただきますが、私も少しでも自社のために活かそうと、30回くらいは参加しています。先日もメインバンクのセミナーがありました。講師は東京大学名誉教授の畑村洋太郎先生でした。彼は生産加工学、危険学、創造設計原理の研究を行っています。また「失敗学」の専門家としても知られています。その実績を買われ、福島第1原発危機の事故原因を究明する「事故調査、検証委員会」の委員長に指名されています。

演題は「これからの日本が生きる道」というもので、専門の失敗学については元より、視点から財政状態から危惧される日本没落のシナリオ、日本企業のグローバル化への対応の遅れ、そこに働く社員のあり方、そして福島原発事故で今後世界がどう変わるかというテーマです。畑村氏はこれまで、日本企業が直面する大きな課題については、自らの間違いを認め、小さな間違いが深刻な問題に発展する前に調査をして、重要な教訓を学ぶことだと指摘していました。

また専門の失敗学の講義では、どんな産業でも一つの分野で安全性が確立されるまでの十分な失敗経験を積まなければならない。そしてその経験を積むには、普通200年はかかる。例えばボイラーや飛行機は、爆発したり、墜落したりというような事故や失敗を重ねた結果、機能や安全性が高まってきた。ところが原子力発電はまだ60年しか経っていない。しかし他の分野の経験・知識の転用で、必要な失敗や事故の経験量は短縮できるが、それでも原発新設は、2040年頃まで不可能というのが畑村氏の見解でした。

また失敗はマイナス面からだけ見ず、プラスに転化すること。失敗の原因は多層になっているので、立体的に捉える必要性がある。また失敗は知識にしなければ、伝わらないこと。本来失敗は予測でき防げるのに、防げないのではなく防ぐ意志が稀薄なのが問題なのである。そこでこれからの時代を生きるのには、考え方を変える必要性がある。これまでは、事故や失敗を起こさないようにするにはどうするかを考え、事故が起こった後のことは極力考えなかった。今後はあり得ることは起こる、即ち事故や失敗は絶対に起こると考え、事故が起こったことの後のことを考えて対応を準備し、想定外の事象に対応できる力を身に付けなければならないという内容でした。

正直申し上げますと、私たちの会社でもいろんな失敗が発生しています。時にはお客様からお叱りを受けるようなクレームになることもあります。原因は、ほとんどがちょっとした不注意から発生するものです。しかし大失敗というのは、この小さなミスから生まれるもので、この重要性を認識できない者が現場に一人でもいると、失敗を繰り返してしまうというお話も伺いました。今回のセミナーでは、失敗のメカニズムや概略を学びましたが、これからは全社員で勉強し知識を共有することによって、お客様から信頼される商品やサービスのご提供に活かしていくつもりです。これからもよろしくお願い申し上げます。

代表取締役　宮坂 宏

アルカディア おきたま再発見シリーズ

飢饉が一度発生した場合には、それが数年間にも渡る場合がある。これを憂慮した莅戸は、日頃から代用食となる動植物の調査・研究をする必要があると考えた。

■命を繋ぐ書■

そこで莅戸は、藩の侍医である矢尾板栄雪らに食用となる動植物の研究を行わせた。その結果を元に自ら飢餓救済の手引き書を執筆。80種類の草木果実の調理方法や食べ方を著したこの救荒植物の書は、「かてもの」と命名され、藩内に合わせて1575冊が頒布されたのである。「かてもの」とは、主食の穀物と共に炊き合わせ食料不足時に主食を節約するための代用食を意味する。翌年にも天保の大飢饉が発生したが、この書のおかげで米沢藩内からの餓死者を出すことはなかったという。

■代表的な「かてもの」■

特に有名なのが「ひょう」である。正式名は「スベリヒユ」という。畑や路傍に自生している。ひょうは茹でて芥子醤油をかけて食べるほか、天日で干したものを煮物にして食する。畑や道端に自生することから、TV番組「秘密の県民SHOW」では、山形県民は雑草を食べると紹介された由縁である。しかしひょうは、長期保存が利きビタミンやミネラル、食物繊維が豊富な究極の健康食。干し物は、「ひょっとして良いことがあるように」との意味あいを込めた正月の郷土料理として食べ継がれている。

一尺を開けば　一尺の仕合わせあり
一寸を墾すれば　一寸の幸あり

《中條　政恒》
郡山開拓＆有為会の父

米沢有為会とは、先駆者である伊藤忠太（工学博士、文化勲章受章）らが、明治22年に幅広い郷里関係者の団体を集め、郷土愛を土台に相互の親睦と切磋琢磨を目的として共存共栄をはかろうとして発足したものです。現在も創立122周年を迎え、会員の親睦を基として郷土出身者の育英と、郷土産業の振興が目的で運営されています。この米沢有為会の発足の動機となったのが中条政恒の存在です。

また彼は明治初期、福島県の安積地域の人口わずか5千人、水の便が乏しく古来一度も耕されたことのないという茫漠たる原野を開拓、現在の郡山市の礎を築いたのです。

■ 誕生の地と学問 ■

天保12年3月8日、米沢藩の重臣与板組の上与惣兵衛政済（まさなり）と母俊（とし）の長男として館山口に生まれた。幼名は与七郎、後に政恒と改める。8歳で興譲館に学ぶ（興譲館とは第9代藩主上杉治憲鷹山公が学問所として再興した米沢藩の藩校であり、現在の山形県立米沢興譲館高校）。幕末に活躍した憂国の士、雲井龍雄は、政恒の2年後輩にあたる。後に父に従い江戸に上り、12才の時には古藤伝之丞とともに、世子上杉茂憲の学友に選ばれた。元治元年、藩の勤学生として古賀塾に学んだ。

江戸で学んだ彼は、米沢藩民の窮乏を救うため蝦夷地開拓事業の夢を持っていた。このため帰郷後、米沢で教師として勤務する藩の制度を嫌い、自由意志で活路を見出せるように具申するのが家老によって一蹴される。政恒は怒って米沢に帰郷したため藩命に背いたとして幽居の身となる。

■ ライフワークと出会い ■

慶応2年8月、赦されて江戸勤番を命じられ林学斎の塾に入る。蝦夷地、樺太の事情を研究、国防、開拓事業の計画を発案した。慶応2年12月、情勢分析と蝦夷地開拓の可能性等を列記した建議書を米沢藩庁に提出したが、財政難を理由に一蹴される。明治5年9月、「上」姓から「中條」姓に復帰。

政恒の開拓事業の夢は、福島県の安積で第一歩を記す。安積開拓は、明治5年に安場保和が県令（県知事）として、福島県に赴任したときから始まる。前年、安場は、岩倉具視、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文らとアメリカに渡り、広大な開拓を目の当たりにした。その安場は、県の典事（課長職）に政恒を任命し安積開拓の全てを任せるのであった。先ず大槻原（現在の開成館周辺地区）の開拓から始まった。

■ 新しいステージと苦難 ■

北海道開拓を夢見ていた政恒は、なし得なかった北海道開拓に描いた夢を大槻原に置き換えて、この開拓に情熱を注ぎ込んだ。しかし二本松士族の移住や農民への呼び掛けだけでは、目的を達成できず、政恒らは、民間参加による開拓も同時に進めた。それは、江戸後期から宿場町として栄えていた郡山宿の富裕商人の出資による開拓会社を組織し、多くの移住者を募集するというものだった。安場、政恒が理想を高く揭げて開拓に尽力しても、商人たちには、「商売以外に手を出すな」という家訓があり、開拓に乗り気ではなかった。それでも中條は、国づくりや町づくりは、今の日本に必要なことであり、将来は必ず報われると根気強く説き続けた。そして明治6年、中條の情熱に心を動かされた阿部茂兵衛ら25人の富商が開成社を結成し、県と開成社の共同による安積開拓が始まった。

しかし、耕作技術の未熟さや土地が肥沃でないことなどの状況が重なり、収穫は驚くほど低く、移住士族は困窮を極めた。中には負債がかさみ、家財道具を売り払い、一家離散した人々も多くいた。

■ 最大の課題と転機 ■

この安積開拓に転機が訪れたのが、明治9年。この年、明治天皇の東北巡幸に先んじ、下検分のため、時の実力者であった内務卿の大久保利通が郡山と福島を訪れた。これを絶好の機会と捉え、政恒は、福島の大久保の宿舎を訪ねる。~~ここは~~
ここで彼は県の事業として、開拓が立派にできたこと、さらに安積野全域に開拓を拡大するために、猪苗代湖の水をこの地に引くことを国費でやって貰いたいと、強く要望した。元々殖産興業と士族授産が持論の大久保と中條の考えは一致し、この出会いが、国営安積開拓と疏水開さくのスタートとなった。

しかし突然の大久保利通の暗殺により、政府の安積開拓への関心は薄れてしまったが、政恒の熱意により、次の内務卿の伊藤博文らに引き継がれた。そして明治12年、オランダ人技師ファン・ドールンの調査結果に基づき、政府は安積疏水の開さくを最終的に意思決定したのであった。

■ 情熱と挫折 ■

これまで開拓事業の参入者は、想像を絶する苦難の連続であった。しかし安積疏水の開さくを機に、水利が悪く不毛の大地だった安積原野に灌漑や舟運の水路が通り、猪苗代湖の豊かな水に潤された開拓地は徐々に変貌を遂げる。政恒は、地域の字名から開拓組織の名「開成社」及び慰憫用の施設まですべてに「開成」の名をつけるなど、時としてその一途さゆえに誤解されることもあった。しかし政恒の指導力は、その全く私心のない情熱と行動力に素晴らしいリーダーとしての信頼を築いていった。

しかし開拓事業も大詰めに差し掛かった頃、政恒の上席典事である山吉盛典（同じ米沢藩出身）とは全く反りが合わず、安場の転任とともに次に山吉が県令となった途端、明治14年安積疏水の通水完成を見ないまま開成の地を去るのである。

■ 夢の実現と奇跡のまち ■

政恒は道半ばで、安積疏水の通水完成を見届けられなかったが、延べ85万人が従事し、総経費40万7千円、現在の金額にして約400億円を投じた安積開拓プロジェクトは、翌年の明治15年に完成する。幹線水路の延長52km、分水路78km、トンネル37ヶ所、受益面積約3千ヘクタールを誇り、不毛の原野は一大穀倉地帯へと変貌を遂げることになった。また疏水による電力、開墾による桑畑のおかげで、繊維産業が栄えるとともに、豊富な米をはじめとした農産物にも恵まれ、全国各地から人々がこの地に集い、元々5千人だった町が、現在約34万人、東北地方をリードする中核都市にまで奇跡的な発展を遂げた。

■ 第2のふるさとへの帰郷と育英 ■

政恒は明治17年12月、東京で太政官大書記官に昇進後、明治19年島根県大権令（知事）となった。その後安積開拓から離れた立場にあったが、明治30年、開成近郷の区長など77名の代表と500戸の地域民の熱烈なり帰還の要望に応え、家族とともに移り住み、村民の教化と村の改善のために余生を捧げた。長らく米沢を離れた政恒であったが、上杉家の相談人に推挙され、米沢藩領出身者対象の奨学事業「米沢教育会」の組織づくりにも協力した。これは後の米沢有為会の発足の動機になった。また同郷の平田東助や伊藤忠太、池田成彬たち後輩に、新しい時代に即応した生き方について薫陶したという。

■ 終焉と意志の継承 ■

政恒は、明治33年4月、福島県桑野村で59才の生涯を閉じた。中條家では政恒の意志を引き継ぎ、地元郡山の小学校などに毎年多額の資金、教育物品の寄贈を行ってきた。政恒の長男、中條精一郎は建築家となり、文翔館（旧山形県庁舎と旧議事堂）、上杉記念館、慶應義塾大学記念図書館や小笠原伯爵邸を設計している。また精一郎の娘は安積開拓を描いた「貧しき人々の群」などを執筆したプロレタリア作家であり、共産党の宮本顕治の妻となった宮本百合子である。

＜参考文献＞
興譲館人國記、先人の世紀前編（松野良寅著）
郡山市ウェッブサイト、水土の歴
＜(社)農業農村整備情報総合センター＞

大久保利通と
中條政恒の会談図

安積疏水開さく当時の十六橋水門

食事に招くということは、
その人が自分の家にいる間中、
その幸福を引きうけるという事である。
by ブリア・サヴァラン
（仏の法律家、政治家。『美味礼讃』を著した食通）

韓国 うまうまグルメ編 その3
～魔法のスープ（序章）～

ブームにはティッピングポイントがあるということ

さて今回から本格的に私が虜となった韓国料理の紹介をしたいが、その前に現在韓国が抱えているある問題について述べてみたい。昨年韓国を訪れた日本人観光客は、年間300万人を超えた。円高ウォン安もあるが、この韓流ブームを作ったきっかけは「冬のソナタ」（冬ソナ）だったといっても過言ではないだろう。今さら説明するまでもなく冬ソナは、チェ・ジウ扮するヒロインのユジンが、学生時代に交通事故で死んだ恋人とそっくりなペ・ヨンジュン扮するミニョン（カン・チュンサン）に出会い、彼と婚約者のサンヒョクとの間で心を揺り動かす韓国のラブストーリードラマである。

この冬ソナでは、第1話と第2話に「影の国」という意味不明な言葉が出てくる。チュンサンがユジンに「男が影の国に行ったが、みんな影だから誰も話しかけなかった。それで男はさみしかった。」という話しをする。これでお終いの話しだが、こんな短い童話や寓話はない。韓国の人には、この段階でチュンサンが「影の国」つまり言わずと知れた軍隊に行くらしい、いつ別れるのだろうかとハラハラしていたというのだ。

＊ティッピングポイント：アイディアや流行、社会的行動などが、ある一線を越えて一気にヒットする劇的瞬間のこと

ドラマには隠されたメッセージもあるかもしれないということ

韓国では特別なことがない限り男は全員徴兵制度があり、大学進学率は84％と世界最高レベルであるが、在学中に約2年間の兵役に就くのが普通なのだ。この間、携帯電話は取り上げられ、恋人ともほとんど会えなくなる。それで大抵の韓国の人の恋愛は、高校で始まって兵役で終わるのである。だから韓国の人にとってチュンサンは、事故死や記憶喪失ではなく、兵役に行って別れた男にしか見えない。そして30才近くになって恋愛や結婚が上手くいかない人は、徴兵制度さえなければ幸せになっていたかもしれないと、徴兵制度を恨むのだという。

このドラマの制作者は、交通事故と記憶喪失を使って兵役を繋げている。つまり冬ソナは「もし兵役で引き裂かれた人と再会したら」という韓国人の永遠のテーマが隠されており、韓国テレビ界で許されるギリギリのレベルの徴兵制批判のドラマでもあったのだ。しかもチュンサンは戻って来たが、中には2度と戻らぬ恋人も少なくはない。

いじめは緊張を集団の外に排出するために生まれるということ

その韓国軍では、現在も隊内でのいじめが大きな問題となっている。まるで旧日本軍式の極端な精神主義や体罰、私的制裁などの習慣が残存しているという。愛国心を揺るがす軍生活とは、一体どのようなものなのだろうか。インターネットなどで公開された画像を見れば、その過酷さは一目瞭然である。全裸で両手を後ろに組み、頭を地面につけさせられたり、便器や水中に頭を入れられたりしている画像もある。また生物化学兵器対策という名目で、松ヤニを燻し煙が充満した部屋に何時間も閉じ込められるという。このようにおよそ訓練とはいい難い、まさしく拷問のような仕打ちを受けることも少なくないようである。

日常生活も大変厳しいもので、真冬でも冷水シャワーを浴びたり、真夏に重い荷物を背負って何時間も山道を延々と歩き続けたりと、除隊者は「思い出したくもない…」という毎日を過ごすのだ。そこで徴兵を逃れるために外国に移住する若者も年々多くなっている。しかしさらに大きな問題があるのだ。

伝統型パワハラはもう一つの戦争かもしれないということ

これらの体罰、私的制裁、いじめなどの原因で自殺者が後を絶たないという。現在、韓国全軍は「過酷行為」と言われる暴力などを部下に行使しないよう、国防部から命令として暴力禁止を掲げているが、多少の改善は見られるものの根本的な解決には至っていない。

2005年には、陸軍の中隊長が便所の水を流していない訓練兵らに立腹し、誰も自首しなかったため、全員に大便付きの指を口に入れるよう命令した「食糞事件」が起こっている。また部隊内の暴力を苦に新兵が先輩兵士2人を小銃で撃って脱走後、本人も自殺する事件も起きた。国防部は軍内の事件事故を通常は公開していないが、韓国KBSテレビによると軍隊の死者は1980年代以降、年間約1千人に上り、うち30～40％つまり年間400人近くが自殺しているという。しかし自殺だけではない。22歳の兵士が日常的な上官からの言葉の暴力に耐えかねて、手榴弾を投げ爆破。その後、自動小銃を乱射して同僚兵士計8人を射殺するという痛ましい事件も起きているのだ。

国が基本的責務を果たせ無かった時に怨嗟は生まれるということ

徴兵制により年間6万人の新兵が入隊するとする。毎年の自殺者400名が2年以内の兵役だけとは限らないが、多くはキャリアの浅い兵士だというから、これは異常な数値である。韓国の兵役法は、五輪などのメダリスト、また野球の国際大会WBCでは2次リーグを突破、サッカーにおいてはアジア大会優勝、ワールドカップでは決勝トーナメントに進めばという条件で兵役免除の特例を与えている。これら不幸な事実を踏まえると、彼らが最後まで諦めないで死力を尽くそうとする姿に納得せざるを得ない。

ところで韓国は、李氏朝鮮王朝の科挙の伝統を受け継ぎ、極端な学歴社会でもある。受験生は年少の頃から自由時間を犠牲にし、深夜まで営業する塾に通うほど過酷な受験戦争を戦っている。実際、夜中の12時過ぎに地下鉄駅付近に出店している屋台で、小中学生の子供が韓国おでんやトッポギ（甘辛く炒めた餅）、キンパフ（海苔巻き）を夜食として頬張っている姿をよく見かけるのだ。

トッポギやおでん

また、受験戦争を勝ち抜くため韓国の保護者は、子供にOECD加盟国の中でトップとも言われる多大な教育費（塾などの個人負担教育費）をかけている。そのため子供にかかる教育費を賄えない家庭や子供を持つことが出来ない夫婦が増えていて、韓国の出生率を1.08人という世界最低水準に落ち込ませる要因の一つとして問題視されている。そんな風にしてまで育ててきた子供が、憲法とはいえ兵役で徴集、祖国を守るために有無を言わさず軍人にされ、しかも本来の職務以外の理由で死なせるというのは、親としても悲憤慷慨の極みであろう。

すべての傷を癒すスープがあるかもしれないということ

またこの国の親子関係は、儒教的風土の中で年長者を敬い、子は親に服従するが、結婚しても完全に独立せずに、親の援助を受け続ける家庭が多いという。また母親は専業主婦として子育てと家族の世話に献身するという旧来からの性役割観が残っている。悪く言えば家の中には、口うるさいお目付役がいつも常駐しているのだ。米沢に住む韓国人留学生にそういった関係を面倒臭がる人がいて、国に帰れば親と一緒に暮らさなければいけないので海外生活は自由でいいとうそぶいていたが、その実彼は毎晩母親に国際電話しているという。

そんな環境で暮らしている韓国の青年が、兵役を終え除隊すると、最初に連絡を入れるのが恋人ではなく、オモニ（母親）だというのだ。そして「早くオモニの料理が食べたい」と泣きつくという。彼らのおふくろの味は、自家製のキムチであったり、チゲであったりする。そして韓国の言葉で「グッ」というスープなのである。今回紹介しようとしたのは前号でも少し触れたが「プゴクッ」という干し鱈を使ったスープである。これまで何十人かの日本人に味わってもらったが、全員がほっとした微笑みを浮かべ、「美味しい」と言ってくれた。さてこのプゴクッであるが、「ミアネヨ」（　　　：ごめんなさい！）残念ながらまたまた誌面が尽きてしまったので次号へと続く‥‥

鯉屋のニュース　新商品できました！

3年前のスタート

福島県の国見には、内陸地でありながらさばの味噌煮で評判のお店、Sさんというお店があります。当社も鯉や棒だら煮などをメインとする、「煮る・炊く」が看板のメーカーですから、以前からこのお店には注目致しておりました。普通に素材と調味料を厳選し、プロの技、いわゆる丁寧な下ごしらえをするだけで、思ったより簡単にSさん以上の味を出すことが出来ました。ただ保存が冷蔵で、２週間の日持ちしかしません。

リクエストと問題発生

しかし当社のお客様や通販のお客様のご要望で、どうしてもレトルト殺菌を行なって、常温でも日持ちする必要性があったのです。レトルト殺菌をすると下記の欠点がでてきます。

①味噌が高熱で焼け、黒くなり風味が飛んでしまう。
②骨まで軟化させると、煮崩れし易くなってしまう。
③２度熱をかけるので、余分に脂が流れ出てしまう。

またまた上お得意様限定 先行試食販売！

骨ごと美味しく健康に～

さばの味噌煮

料亭風

1袋 170g（筒切り約2切入）
販売予定価格 ~~450~~円のところ
今回だけ 1袋 **420円**、3袋 **1,200円**

追い風と完成

この問題を解決できず、3年の時間が流れてしまいました。しかしこの度の東日本大震災の影響で、さば味噌煮を待つお客様の声に押され一心に改良取り組みました。そして9月ようやく上記の問題を解決、やっと満足のゆく自信作ができました。

美味しさの秘密

① 日本近海の約2倍の脂肪を蓄えている、安心、安全なノルウェー産のさば
② 江戸時代創業の名醸造元の蔵出し味噌をベースに、調理長が3時間かけて作った特性ダレ。
③ 水洗い、塩振り、霜降り（湯引き）などの丁寧な下ごしらえで臭みを抜く。
④ 化学調味料や保存料、カラメルなどの着色料は不使用。

試食いただいたバイヤー&お客様の声

これは家庭では出せない味だね。まるで料亭の料理だ…

これは旨いすぐにでも売らせて欲しい

缶詰やレトルトでこんな美味しいさば味噌煮食べたことないわ

【たすくふ～ずNEO スタッフ紹介】

S：好きなもの
K：きらいなもの

事務所編

元気で明るくホッとする…そんな事ム所を目指しています

こんにちは！いつも私たち5人が皆様からのご注文を承っております美女？軍団です。(^^;) 私たちは皆様とお話するのが大好きです。ご注文以外でも、皆様の近況や米沢の情報なども お話しできたらうれしいです。お待ち致しております。

「旦那が居なくてもええねん」
鬼嫁こと 宮坂睦
S：いちご（愛犬）、台所で一杯、ガーデニング
K：鯉太郎の夕飯作り、ヘビ

「天然でもええねん」
×ナメカタ → ○ナミカタ
行方真理子
S：ぼ～っとすること、読書、自分の世界
K：中途半端、月末

「お笑いがええねん」
あべちゃんこと 安部裕子
S：千原せいじ、お笑い番組
K：チャラ男、オービス

「1人旅がええねん」
鯉太郎
S：鰹と白身魚の刺身、本(読)
K：かまぼこ、二日酔、人の送り、団体旅行

おまけのコイタロー

「お姉さんですが新人です」
伊藤えみ子
S：お菓子、アイス 食べること 温泉、ディズニーランド
K：いくら、すじこ、うに 生くさいもの

「むぎがええねん」
リーダー 橋本玲子
S：むぎ（愛猫）、自分の世界、やさしい紳士
K：締切り、レジ締め、恋だよりの書き直し

↑むぎ

鯉の宮坂創業祭 秋のふれあい恋まつり

今年も盛大に開催

　今年も恒例の「恋まつり」を10月7・8・9日の3日間行いました。ご来店者数は3日間で約2000名と、多数のお客様にお越しいただきました。スタッフ一同心より御礼申し上げます。
　さて今回は鯉の宮坂若手社員（新入社員及び一部ベテラン含む）がメインで企画し、日夜検討会を行いました。当日は進行係りや準備やらガチャピン役やら？で朝早くからてんやわんやの大騒ぎ…とまでは行かなくても古今奮闘の毎日でした。各部署の諸先輩方も影ながら応援し、3日間問題もなく、お客様にも大変喜んでいただき終了いたしました。

　今回の実行委員は、大変苦労したと思います。しかし話し合いの場を何度も設け、心を一つにし、今まで以上に部署間の仲が良くなったと思います。いろんな意味で勉強になり、これからが大変楽しみです。
　恋たより愛読者の皆様、弊社商品ともども、若手社員の今後の活躍をどうか見守りいただき、ご指導くださいます様宜しくお願い申し上げます。
　では、来年も今年以上に盛りだくさんの企画を行いますので、まだ一度もご来店いただいておられない方も、是非、足をお運びくださいませ。きっと楽しんでいただけること御約束いたします！

山形の美味しいもの 当選者発表！

2011 年「秋の恋だより」では、多数のご利用誠にありがとうございました。抽選の結果を発表致します。

★★★米沢牛すき焼き用★★★

東京都	福本　十九子様	
福島県	秋山　サチ子様	
宮城県	三升　みき子様	
山梨県	渡辺　一弘様	
埼玉県	鈴木　昌一朗様	

★★ラ・フランス★★

茨城県	松海　栄子様	
新潟県	佐藤　保志様	他８名様

★★新米つや姫★★

埼玉県	中島　登志様	
福岡県	村田　芳子様	他８名様

★鯉の宮坂・宮香本舗美味しいギフト★

千葉県	大木　恵子様	
岐阜県	野村　宗丸様	他２８名様

スペースの関係上、お名前を発表出来なかった皆様、大変申し訳ありませんが、発送をもってかえさせて頂きます。おめでとうございます。

うちのむぎ

さいきんなんだかとっても寒いにゃ～
ママ！はやく「こたつ」にしてにゃ～